

## 検索技術者検定 1 級 受験の手引き

この手引きは、1 級を受験される皆さんが少しでも効率的な受験勉強を進められるように、試験の領域および受験のための学習方法について説明したものです。この手引きをご利用いただき、受験勉強の参考にしていただければ幸いです。

皆さんのご健闘を祈念しております。

### 1. 試験の対象者

1 級試験の対象者は、組織において情報検索業務に従事しており、実務経験が豊富な人、情報活動に関する高い知識とスキルを有する上級情報担当者等を想定しており、かつ、検索技術者検定 2 級（情報検索応用能力試験 2 級、データベース検索技術者認定試験 2 級含む）合格者の方です。

### 2. 試験の領域

試験領域の区分および内容は以下のとおりです。

2 級と同様ですが、それぞれの領域において問われる知識や応用力がより高いところに設定されています。また、情報活動に関するマネジメント・スキル、たとえば部門間の調整や問題解決能力なども求められます。

区分	内容
(1)情報検索技術に関する知識と実践	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報資源の選択および経済的評価能力</li><li>・高度な検索技術の実施能力</li><li>・情報要求者とのコミュニケーション能力</li><li>・インフォプロの役割</li></ul>
(2)情報組織化と流通	<ul style="list-style-type: none"><li>・データベースの種類</li><li>・データベースの流通</li><li>・情報サービス機関</li></ul>
(3)専門分野の情報資源	<ul style="list-style-type: none"><li>・専門分野の情報資源</li><li>・専門分野の主題知識</li><li>・専門分野の法規制に関する知識</li><li>・専門分野の調査結果の解析、評価</li><li>・専門分野周辺領域に関する知識</li><li>・情報検索に関する英文読解力</li></ul>

区分	内容
(4)情報の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の管理</li> <li>・情報の分析</li> <li>・情報と問題解決</li> <li>・知的財産権、著作権に関する知識</li> </ul>
(5)情報の最新技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータに関する知識</li> <li>・インターネットに関する知識</li> <li>・情報セキュリティに関する知識</li> </ul>
(6)情報の伝達と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文執筆能力</li> <li>・プレゼンテーション能力</li> </ul>
(7)教育・指導能力 調整・提案能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザー教育の企画・指導能力</li> <li>・インフォプロ教育の企画・指導能力</li> <li>・部門間調整能力</li> </ul>

(1)情報検索技術に関する知識と実践

(2)情報組織化と流通

(1)、(2)は情報検索の基礎的な部分ですので、日頃の情報調査業務を通じて培われるものですが、不安なところは2級用参考書(4. その他参照)などで復習しておきましょう。

また、インフォプロの役割についても自身の考えを整理しておくことは有効です。

(3)専門分野の情報

各自専門分野の情報資源については、データベースだけでなくweb上の有用サイトについても理解を深めておくといでしょう。

(4)情報の利活用

特許マップや解析データのビジュアル化などの情報解析技術についての知識が求められます。また情報を活用するときに注意しなければならない著作権についても基本的知識を理解しておきましょう。「情報と問題解決」の基礎知識は、2級用参考書「4章情報の管理・分析と知的財産」で理解しておきましょう。

(5)情報の最新技術

情報担当者として知っておくべき知識が求められます。「情報の科学と技術」や「情報管理」、ベンダー等のHPで関連知識を深めるといでしょう。

(6)情報の伝達と評価

インフォプロ、社内での情報調査のあり方、のように関連するテーマで小論文を書いてみるといでしょう。

自身の考え方を日頃から整理しておくことが大切です。

#### (7)教育・指導能力、調整・提案能力

エンドユーザー教育を企画・実施する、部門の新人への教育カリキュラムを考える等、その機会の有無にかかわらず想定して考えてみるとよいでしょう。

### 3. 二次試験（面接）について

決められた課題に関するプレゼンテーション能力を問うほか、情報検索関連業務についての考え方や企画力、情報検索技術と問題解決能力を組み合わせた情報サービスのスキルなどを問う出題が、口頭試験によって行われます。

また、情報関連の対外活動（各種団体・活動への参加、口頭発表、文献発表等）も評価の対象となります。

### 4. その他

1 級は、日頃の業務経験により培われたマインドが問われます。そのため、指定された参考書はありませんが、2 級用参考書の内容は理解しておくようにしましょう。また「情報の科学と技術」、「情報管理」等の関連雑誌は日頃から目を通し、掲載されている論文については簡単に内容を説明できるようにしましょう。

参考資料：

※ 2 級用参考書「プロの検索テクニック：検索技術者検定 2 級 公式推奨参考書」

発行：樹村房（2018 年 8 月刊） ISBN：978-4-88367-307-0

※ 「情報の科学と技術」、「情報管理（2018 年 3 月以降休刊）」

※ なお、本手引きについての質問にはお答えできませんのでご了承ください。